



着物と聞けば、どのようなイメージを抱かれるであろうか？高価、特別、華やか、といったイメージから、日常生活との距離を感じ、今の時代に着物なんて着るのは成人式や卒業式くらいだと思う方もいらっしゃるかもしれない。

私にとって、着物は決して特別な存在ではない。それは、2歳から15歳まで日本舞踊を習っていたこと、実家では母が茶道をしていること、が関係している。2歳の時から日本舞踊を始めたと聞くと、英才教育と思われるかもしれないが、そうではない。家の目の前が日本舞踊の教室であり、窓から見える練習風景を、飽きもせずには私は見つめていたらしい。それに気が付いた先生の方が、お声掛けてくださったそうだ。茶道の方は、幼稚園くらいから母が指導してくれていたそうだが、小学3年生くらいの時には辞めてしまっていたので、あまり覚えてはいない。

高校生になると、着物を着る機会はめっきり減ってしまった。気が向いた時だけやっていた茶道の時や、夏祭りに浴衣を着るくらいになっていた。大学生になると、その機会はさらに減り、成人式で着物を着てからは、数えるくらいしか着物を着ていない。しかし、大学生になり着物は着物だけにとどまらないと感じるようになった。

去年フランスに1か月の短期留学をした際、祖母が古い浴衣で作ってくれたワンピースを持って行った。海外に1人で行くのは初めてだったが、そ

の懐かしい肌触りが私を安心させてくれた。1反の布から作られる着物は、自由自在に形を変えることができる。着物の良さや魅力は、そんな所にもあると思う。

これからも、着物を身近に感じたままにしたい。そして、着物という1つの伝統文化が、様々な日本の伝統文化を知ってもらう1つのきっかけになれば良いと思う。



(小学4年生の時の発表会の時のもの)



やまうち のぞみ (フランス語学科4年次生)